

2020.02.10.聖書の学び

愛のある教会はどんな風に見えるのか？（新約聖書：テサロニケ人への手紙第一 5章 12節～ 15節）

JD ファラグ牧師

では始めましょう。主が、今日私たちにご用意くださっていることが楽しみです。テサロニケ人への手紙第一 5章の 12節から見て行きます。私たちは先々週、11節まで学び終えました。ですから今日の私たちの学びは、12節から始め、15節までです。可能な方はご起立下さい。ご無理であれば、そのまま座って頂いて結構です。私が読んでいく個所を付いて来てください。使徒パウロは聖霊によって導かれ、12節に書いてます。

テサロニケ第一 12節～15節

12 兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあつてあなたがたを指導し、訓戒している人たちを重んじ、

13 その働きのゆえに、愛をもって、この上ない尊敬を払いなさい。また、お互いに平和を保ちなさい。

14 兄弟たち、あなたがたに勧めます。怠惰な者を諭し、小心な者を励まし、弱い者の世話をし、すべての人に対して寛容でありなさい。

15 だれも、悪に対して悪を返さないように気をつけ、互いの中で、またすべての人に対して、いつも善を行うように努めなさい。

祈りましょう。主よ、ありがとうございます。あなたの御言葉に感謝します。主よ、今、あなただけがお出来になるように、私たちの心を落ち着かせ、私たちの心を静め、私たちの想いを集中させてください。あなたの御上に... 今日私たちのためにあなたが御言葉の中に ご用意くださっているものに
主よ、私たちはあなたに 全神経を集中したいと思います。あなたが、私たちの人生に 語りかけて下さいますように。主よ、どうかお語りください。あなたのしもべは聴いております。イエスの御名により祈ります。アーメン、アーメン。

どうかお座り下さい、ありがとうございます。今日は、教会について話したいと思います。具体的には、本当に愛のある教会について。本当に愛のある教会は、実際にどのような様子であり、どのように見えるのか？パウロがここで、言ってみれば、方向転換するのは興味深いです。携挙について話した後に。私の一番大好きなトピックです。そして今、これらの「スタッカートの訓戒」と 私が呼んでいるものを彼らに与え始めます。スタッカートと呼ぶ意味を説明します。短くて、鋭くもあり、率直とでも言うべき、訓戒です。テサロニケの彼らの教会に関し、彼らを促し、警告さえしているのです。パウロはその教会を非常に愛し、そこに戻ることを切望していましたが、できませんでした。パウロがここでやっているのは、健康で愛のある教会がどうあるべきか、どの様に見えるべきか、詳細に説明することです。

私が「愛のある」と言うのは、それが、今日私たちがここで見て、お話しすることすべてにおける共通項だからです。それは、彼が言うことのすべてにおける 共通項であり、それはすべて、愛の実（単数）から来るのです。御霊の実（ガラテヤ5章）。皆さんはそれをよくご存知です。実（単数）は、愛です。愛から他のすべてのものが生じます。喜び、平和、優しさ、善良さ、柔和さ、優しさ、忍耐、自制心。それらすべて。それらはすべて愛の実の結果として生まれるのです。それが、今日私の話したいことです。私は7つを見つけました。皆さんは、もっと見つけるかもしれませんが、健康で愛のある教会を特徴づける 7つの特徴です。一つ目は12節と13節です。それは、健全な教会は、指導者を尊重するという

ことです。牧師を。どうしてそんな風に私を見てるんですか〜？これが牧師の口から出ると、虫がいいことを言っているように思われるのではないかと 私が敏感になっているのをご理解ください。しかし、実のところ、権威ある立場にある人々は 尊重されるべきなのです。神は、私たちをそのような立場に 召してくださったのであり、教会におけるそういった権威ある立場は、 尊敬され、尊重されるべきなんです。だから、私はこれを 10 週間のシリーズでやりたいと思います。冗談です。(笑) リラックスしてください。指導者は、その立場の故に、尊重されるべきです。彼らの性格のためではありません。パウロがここで言っていることに注目してください。とても重要です。私たちが指導者として尊敬を得るのは、私たちがどういう者であるかによるのではなく、私たちがする大変な働きのためです。実際に、それは大変な仕事なんです。この重度の特権は、それらの権威ある立場に伴う 重大な責任と、また、義務とセットになって来ます。いつか私は神の前に立って、説明することになります。それは深刻に受け止めなければなりません。ヤコブはそのことについて語っています。それらの立場につくことを望む人たち。それは大変な仕事です。それに伴う労働。それが、尊敬が得られる所です。次に進みましょう。「お願いですから、そうしてください」と言ってる方たちもいますね。

2つ目は、14 節の初めの部分にあります。これには少し時間を費やす必要があるかもしれません。

それは、混乱させる人に警告する（気ままな者を 戒める）ということです。さて、パウロが言っていることは、原語では、ズレているとか、乱れているというような 概念を伴っています。ほとんど軍隊的な意味に近く、「お前は協調していない。」「お前は指示に従っていない。」「あなたは乱している。」それが、パウロがここで言っていることです。私はこれが牧師の職務上、最も困難な側面の一つであると言わねばなりません。問題を引き起こす人々、混乱を起こす人々、トラブルを引き起こす人々に対処すること。パウロが次のように言うことに注目してください。 私たちは「怠惰な者を諭す（訳注：怠惰で混乱させる者に警告する『欽定訳』）」必要があります。面白いです。私はこう考えています。たいてい、トラブルを起こすのは、暇を持て余しているために問題を起こす人たちです。それは私自身の個人的な経験です。それは通常、神のことで忙しくしていない人たちで、忙しくしている人たちに対して、おせっかいになってしまう人たちです。私たちのこの教会で、長い年月の間に そういうことがありました。それは難しいことでしたが、正しいことでした。私たちは人々に立ち向かわなければ なりません。私たちはそれを聖書的にやりました。私たちには聖書的規範、聖書的模範があります。イエスご自身が言われたのが、マタイの福音書に 記録されています。18 章 15-17 節。イエスは、言われます。「まず、あなたはその人の所に 行く必要があります」。1 対 1 で。彼らがそれを聞き入れないなら、2 人以上の証人を連れて行きなさい。彼らがまだそれを聞き入れないなら、教会のリーダーを連れて行きなさい。そして、彼らがまだそれを聞き入れないなら... イエスは仰っています、「彼らとは関係を断ちなさい」うわおー。テトスは言っています。分派を起こす者は、一、二度戒めてから、三度目は、除名しなさい。（彼らと関わってはいけない） **（テトス 3 章 10 節）**

彼らを IRS(米国国税庁)の従業員のように 扱いなさい。取税人のように。あら、ひどかったかな…IRS にお勤めの方、 私たちはあなたを愛していますよ。どうぞ知っておいてください。特にこの時期...イエスの御名によって(笑)しかし、私たちのものである この素晴らしい特権を持つ、神の群れの監督者として、神を礼拝するのにふさわしい環境を作るのは 私たちの責任なのです。そして誰かが私たちの間に入ってきて、問題を引き起こし、混乱を起こし、分裂させているなら、私が単刀直入に言うのをお許しくださいね。でも、早い時期に私は、「None-One-Done Principal/ ナン・ワン・ダンの法則」を取り入

れました。それが何かを説明します。

「ナン(none)」:ゼロ容認一度で もう終わりです。それまでです。私たちはあなたに警告しますよ。聖書的に、私たちはあなたに立ち向かいます。しかし、あなたが乱している場合はあなたは除名になります。それまでです。なぜなら、この教会、私は主にお願いしました。特にこの件で私を助けてくださるように。しかし、私はこの素晴らしい、愛の溢れる教会を 猛烈に守っています。ここは皆さんにとって、安全な場所であればなりません。言っておきますが、羊の皮を被って入り込むオオカミがいたら、いつでもそれらを見分け出すことができます。そして、彼らはいなくなります。ここには居させません。私たちは長い年月の間に そうすることがありました。混乱させる（分派を起こす）人を戒めます。

では3つ目。それは14節の2番目にあります。それは、私たちが小心な者を励ますことです。私は、これが分かり切ったことのようなのを認めますが、何が悲しいかご存知ですか？ 他の人を励ます代わりに、教会が他人を非難することで知られていることです。イエスは、「わたしが来たのは 世をさばくためではない」と仰いました。パウロはローマ人に向けて、8章1節で言います。

「こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が 罪に定められることは決してありません。」（ローマ人への手紙8章1節）

私がまた個人的な経験に言及するのをお許し下さい。私が長年に渡って知った事は、教会の人々が、しばしば、落胆している人たちをさばき、非難することです。彼らはその人たちの人生には罪があると非難するか、または、その人たちが十分な信仰を持っていない、と責めます。何年も前ですが、私と妻が結婚したばかりで本土にいた時、私たちは不妊で、10年かかりました。私たちには子供ができませんでした。医者は「おそらく養子縁組をしないと…」と言いました。私たちは忠実に教会に通いました。

もちろん、私たちの友人たちが、次から次へ、また次から次へ、そのまた次へ、赤ちゃんを産んでいきます。夫は妻のそばを通り過ぎてくしゃみをすると、彼女は妊娠します。それは私たちにとってつらいことでした。その辛さが十分でないとするば、こう示唆し始める人々がいました。

「あなたたちが子供を持たない理由は、あなたの人生に何らかの罪があるからです。」「告白していない罪が。」ある時など、キリストにある兄弟が… 本当にそれはびっくりします。彼は実際にというの、私は幼なじみとして彼と一緒に育ったから、彼は実際に、私の人生には罪があると非難しただけでなく、彼は私の人生の中の特定の罪を 指摘までしました。うわあー。ありがとう。うわあ。愛はどこにあるの？もっと最近では、娘のノエルが亡くなった後、ある女性が近づいてきて、私に言ったのは、もし私にもっと信仰があったら、娘ノエルは死ななかつただろう、と。私は申し上げなければなりません。私たちは悲しみのどん底にいました。それは言い表せない痛みと苦悩、哀しみでした。最初、私は「主よ、それは本当ですか？」「私に十分な信仰がないからですか？」「それとも、私の人生に罪があるのですか？」それは、とても悲しいです。どうか、決して私が罪を受け入れ、容認することを提案しているのではないことを知っておいてください。でも、非難するものではありません。罪の自覚ですか？ はい。非難ですか？ ダメです。どうしたら違いが分かるのですか？ 言ってみれば、これがリトマス試験です。サタンは非難します。聖霊は罪の自覚を与えます。それが私を主から引き離す時、それは非難だと分かります。そして、それが私を主に引き寄せる時、それが罪の自覚だと分かります。それがリトマス試験です。もし、私が神が怒っていると想像したら、私は距離を置いておくでしょう。私たちが大いに過ちを犯すと思うのは、私たちが地上の父親のレンズを通して、天の父を見ることです。私は信じて間もない者として、長年それをしていました。私は父とは良い関係を持っていませんでした。彼は非常に厳しく、非常

に堅物で、しょっちゅう不在でした。そして、彼はいつも私に怒っていました。もちろん私は、彼が腹を立てて当然なことをしていたに違いありません。私はゆっくり寝て、朝、彼が家を出るまでは目を覚ましたくないくらいでした。そして彼が家に戻ってくる前に早く寝たいと思っていました。なぜなら、彼はいつも私に腹を立てていたからです。主が私に教えてくださったことの一つは、天の御父様はその様な方ではないということです。彼は、木製スプーンを持って待ち構えてはいません。皆さん、木製スプーンはいいですよ。私たちの子供たちは私が家の木製スプーンを隠していました。だから、私たちは買い続けなければいけませんでした。私たちは木製スプーンの株を持っていると思います。天のお父様はあなたを叩こうと木製のスプーンを持って待ち構えていません。彼はあなたを抱きしめるために両手を広げて待っておられます。

4つ目。それは14節の三番目にあり、弱い者を助けるということです。またしても、それは分かり切ったことのように思えますよね？ しかし悲しいことに、そうではありません。弱者を助ける代わりに、クリスチャンは弱者を避けています。だから、私は自問していました。実際には、主に問いかけていました。私たちがそうするのは、なぜでしょうか？ 私たちが最も小さく最下位の者に関わりたくないの、なぜでしょう？ 私たちは弱い者たちと関わる代わりに、「強いもの、強力なもの」と関係を持ちたいと思います。それはなぜでしょうか？ こういう考えもあります。私たちの罪の性質にある本質として、私たちは、弱くて無力な者には私たちに提供するものが何もないと考えます。彼らは私たちのために何をしてくれるというのか？「私たちが彼らのためにできることは何か？」ではなくて、「彼らが私たちのためにできることは何か？」なのです。彼らが、私のために何もできないのなら、私は彼らとは何の関わりも持ちたくない。それが理由です。私たちは「そういう人たち」から、自らを遠ざけ、自らを独立させます。私たちは「あれらの(強い)人々と付き合いたいと思っています。イエス・キリストの性質とは全く正反対です。私たちはイエス・キリストの教会ではないのですか？ 私たちは、恥を知るべきです。福音書の中で私は誰かを非難したり、くどくど言いたいものではありません。しかし、私たちはこのことに関して、聖霊に私たちの心をしっかりと探っていただいたら良いだろうと思います。

福音書の中で、イエスが惹かれているのは、弱い人、最も小さい人、足の不自由な人、目が見えない人、そして体の弱い人たちです。主の最も厳しい言葉、救い主の口から出た最も厳しい言葉は、宗教的エリートのためのものでした。私はすごく罪の自覚を与えられてきたので、5つ目に進みましょう。私は次のもっと罪の自覚を与えられるでしょう。寛容のことだからです。14節の3番目です。パウロは言います。「全ての人に対して寛容でありなさい。」もし皆さんが私に、愛のある教会の最大の実証の一つは何だかと思うかと問われるなら、これでしょう。こんな風に言わせてください。人々が互いを愛し合う、愛のある教会を見せてください。そうすれば私は皆さんに、人々が互いに寛容である教会をお見せしましょう。ところで、私たちが結婚式で引用するのが大好きなあの有名な愛の章、第一コリント13章ですが、私が結婚式の司式をするたびに、カップルが望むのは、第一コリント、「愛は..、愛は...」 あああ〜。私は彼らに、私はそれをしたくないと言います。すると、彼らは結婚式をするのにだれか他の人を見つめます。実際には理由があります。なぜなら、その有名な愛の章は、あなたが考えているものではありません。パウロが神の御霊によってそれを書いた理由は、コリントの教会は愛が何であるかを全く知らなかったからです。彼らは教会内のあからさまな性的な罪を受け入れ、容認することで、自分たちが愛していると思っていました。パウロは基本的に彼らに言います。「それは愛ではない！」愛とはこういうものだ。よって、コリント人への手紙第一13章です。面白いと思いませんか？パウロが挙げている最初の

特徴は、「愛は か...か...か...か...寛容」です。おお～～私は皆さんに対し、とても率直です。

一部の人々は、当然のことながら、私が率直すぎると非難されるかもしれません。しかし、これが私という者です。これは私が大変苦悩することです。私はとてもせっかちなんです。なんということ。皆さんもそうですから、靈的ぶって私を見ないでください。私はただ、せっかちです。私は人に対してせっかちになりがちです。早く、早く、早く、主はとても誠実です。主はいつもとても誠実に、ご自分がどれほど私に対して寛容であられるかを思い出させてくださいます。ところで、これは全般的に言えることです。それは赦しに当てはまります。時おり、私は誰かを許すのに苦労します。そして、主はただ、再び、とても誠実に、主はとても柔和です。彼は厳しくありません。彼は柔和で良い羊飼いです。そして、あのかすかな細い、罪を自覚させる聖霊の声で、こう言われます。「JD、何をしてるの？」私は彼らを赦すなんてできない。私は彼らを赦すかもしれないけれど、絶対に忘れない！「ああ～、そういうことかい。」「このリストのことを思い出してもらえるかな？」「ほら。」それは実際には巻物です。それをほどこにはしばらく時間がかかります。「主よ、それは何ですか？」「待って、まだだから。」「ええっと、巻物だからね。」「それらは全部わたしがあなたを赦したことだよ。」おお...「わたしはあなたに対し、どんなに寛容だったかな？」「わたしはあなたのことを、どれほど赦してきたかな？」あら。私はもっと罪を自覚させられたので、また次に進みましょう。

6つ目。それは15節の一番目にあります。私たちは不当に扱われても、不当に扱わないということです。パウロは言います。悪をもって、悪に報いてはいけません。誰かがあなたを不当に扱ったとしても、仕返しをしようとしてははいけません。オズワルド・チェンバースからの私の一番のお気に入りの引用の一つは、それは、「私が不当に扱われたかどうか」の問題ではなく、「私は不当に扱ったか？」です。それは状況の全体像を変えませんか？「私は不当に扱われたのか？」ではなく、「私は不当に扱ったか？」です。私たちは、私たちに対して罪を犯した人々を赦す必要があるのです。主が私たちの罪を赦されたように。悪をもって、悪に報いなくてください。

最後、7つ目。15節の二番目にあります。それは私たちがすべての人に対して、善を行なうということです。さて、最後までお付き合いください。なぜなら、パウロがここで言っていることは、簡単に見逃したり、さらに悪いことに、無視してしまうかもしれないからです。彼が言っていることに注目してください。「私たちは常に、互いの間で、いつも善を行い、また、他の全ての人に対しても、いつも善を行うよう努めなさい。」言い換えれば、私たちが常に善を行なうために努めるのは、キリストの体の一部ではない人に対してでもです。これが私たちが人々をキリストに勝ち取る方法です。人々をどのように扱うか。教会内だけでなく、ああ、ところで、これは教会だけに当てはまるわけではありません。それは人生のあらゆる分野に当てはまります。私たちが今話したことすべてが、結婚生活にあてはまります。愛のある、健全な夫婦関係に。これらは、皆さんが破るべきでない原則です。あなたがそれらに反抗するとき、それらはあなたを破壊します。これはやはり、イエス・キリストの教会がいかにあるべきか、いかに映るべきかの模範、規範です。締めくくりに言います。私が申し上げなくてははいけないのは、私が「あるクラブに属している」ということを、はっきりと自覚していることです。他にもっと良い言い方が見つからないのですが、非常に数少ない牧師たちのクラブです。私がこれから皆さんに言おうとしている事を 実際、正直に、言うことのできる牧師たちです。それは、皆さんが 牧師職を喜ばしいものにする、ということです。ここは、とても愛のある教会です。自分の教会について そう言うことのできる牧師はあんまりいません。そして、自分たちの教会について そう言うことができる人たちも あまり多くないんです。

ひとつに私は、どうすれば皆さんに十分に感謝することができるのかが分かりません。牧師であることは再度、私はそれが虫のいいように聞こえないことを願っていますが、それは本当に難しいんです。本当に、本当に大変です。私は、2つのビジネスを所有していました。そして、牧師であることは、それらの両方を組み合わせたよりも難しいです。それは本当に、本当に大変な仕事です。

毎日24時間、週7日、年365日です。そして、それは牧師と牧師の家族に負担がかかります。しかし、この教会はそれを喜びにしてくれました。この教会の牧師として、私にとってものすごい特権なのは、毎週日曜日の朝、ここに立つことです。そして木曜日の夜は、週半ばの聖書の学びのために。皆さんは牧会を喜びにしてくれました。こう言ってこの説教を閉じたいと思います。ありがとうございます。私は皆さんを愛しています。私はあなた方をとても愛しています。主は私の心、私がどれほど皆さんを愛し、感謝しているかを御存じです。祈りましょう。

お父様、感謝します。主よ、私は祈ります。私たちが、ここにあるあなたの御言葉に見て、聞いたことは、ここに置き去られるものではなく、私たちが家庭に持ち帰るものです。私たちの毎日に、私たちの週に、そして私たちの人生に。そして、聖霊が祝福して適応させてくださるのです。私たちの生活、私たちの結婚生活、私たちの人間関係、私たちのビジネス、私たちの職場に。そして、ここ、この教会にも。主よ。この愛に溢れる教会をありがとうございます。イエスの御名によって。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7